

大石重之レビンが予選でN1600クラスレコードブレイク、第3戦を制す!



富

士チャンピオンレース第7戦が11月30日に、爽やかな青空の下で開催された。最初に行われたシルビア・アルテッツァ/MR2/AE86/NA1600/AE111/ロードスターN1による6クラス混走レースは、Wヘッダーで開催。早朝の予選はコンディションに恵まれ、3クラスでレコードタイムが更新された。

そのうちNA1600は、実に12年ぶりのブレイク。新たなレコードホルダーとなった大石重之選手は、「まだまだ出そうでした。最後、ガス欠気味になっちゃったし」と。そしてシルビアは山崎浩明選手が自身の記録を更新するも、「欲を言えば、しっかりクリアが取れれば……」と、それぞれ完全燃焼ではなかった様子。

一方、ロードスターN1では村上博幸選手が、「2台(ND)がいますので、うまくスリップストリームも使えて。今までやっていた方々には、

少々申し訳ない気もしますが、古いクルマは部品調達も大変になってきましたし、新しいクルマでやりやすいパッケージを提案しよう」と現行のNDでNA勢のタイムを破って満足げ。

決勝レース1はスタートでこそ出遅れたものの、最終コーナーで抜き返した大石選手が、その後はトップを譲らず、「遠慮なく行かせていただきました。今日はもう1レースありますから、またガンガン行きます」と語った。シルビアも山崎選手の圧勝に。

AE111は、さながらサバイバル戦。まず予選2番手の大沢雄哉選手がトラブルで出走できず、予選トップから快走を重ねていた船木周一選手も8周目にスローダウン。勞せずして内田恒雄選手がトップに躍り出た。MR2は谷田伸行選手が、そしてAE86は志村忍選手の優勝に。

唯一激しいトップ争いが繰り広げられていたのが、ロードスターN1だった。序盤は5台



第3戦NA1600クラスは、予選で1分54秒224のクラスコースレコードを叩き出した大石重之選手が優勝した。

で、終盤は村上選手と雨宮恵司選手、そして大野俊哉選手の3台に絞られる。このバトルで明暗が分かれたのは最終ラップ。総合トップの大石選手にかかわされたのだが、その時の抜かれ方でS耐王者の経験を持つ村上選手が勝ることに。2位はやはりNDの雨宮選手が獲得した。

決勝レース2もNA1600の大石選手が、ひとり逃げる格好となったが、途中で痛恨のスピン。これにより総合のトップだけは、シルビアの山崎選手に明け渡してしまう。望外の結果が転がり込んで、「総合優勝は初めてです! 狙っていたんですが、諦めずにいて良かったあ。



1.2.第3戦シルビア・アルテッツァクラスで優勝の山崎浩明選手。



3.4.第3戦MR2クラスで優勝の谷田伸行選手。



シルビア・アルテッツァ /MR2/AE86/NA1600/AE111/ロードスター N1 第3戦 / 5. AE111クラス優勝の内田恒雄選手。6. AE86クラス優勝の志村忍選手。7. ロードスター N1クラス優勝の村上博幸選手。8. AE111クラス2位の塩岡雅敏選手。9. AE111クラス3位の川原悠生選手。10. AE86クラス2位の山口崇選手。11. ロードスター N1クラス2位の雨宮恵司選手。12. ロードスター N1クラス3位の大野俊哉選手。13. AE111クラス表彰の皆さん。14. AE86クラス表彰の皆さん。15. ロードスター N1クラス表彰の皆さん。



シルビア・アルテッツァ /MR2/AE86/NA1600/AE111/ロードスター N1 第4戦 / 16. AE111クラス優勝の内田選手。17. AE86クラス優勝の山口選手。18. MR2クラス優勝の谷田選手。19. AE111クラス2位の塩岡選手。20. AE111クラス3位の松川智泰選手。21. AE86クラス2位の志村選手。22. ロードスター N1クラス2位の村上選手。23. ロードスター N1クラス3位の芝田敦史選手。24. NA1600クラス優勝の大石選手。25. シルビア・アルテッツァクラス優勝の山崎選手。26. ロードスター N1クラス優勝の雨宮選手。27. AE111クラス表彰の皆さん。28. AE86クラス表彰の皆さん。29. MR2クラスの表彰台。30. NA1600クラスの表彰台。31. シルビア・アルテッツァクラスの表彰台。32. ロードスター N1クラス表彰の皆さん。



本当にいい形でシーズンを終わられました」と山崎選手は大喜び。逆にクラス4連勝とはなったが、大石選手はレース後になぐりと肩を落としていた。このふたりは、ともにチャンピオンが確定した。

MR2は谷田選手が連勝し、AE86は3勝目

を挙げた山口崇選手が王座を確定。AE111は内田選手が連勝するも、王座は未勝利ながら塩岡雅敏選手に確定した。ロードスター N1は雨

宮選手の背後に村上選手がついて「最終ラップに抜け出すつもりが、黄色いシルビア(山崎選手)がずっと抜いていった直後にチェッカーが、



N1400/N1500/N1000/デミオレース/AUDI A1 FUN CUP 第4戦 / 33.N1400クラス優勝の大竹直選手。34.N1000クラス優勝の赤堀康裕選手。35.N1500クラス優勝の西山隆選手。36.N1400クラス2位の高橋ノボル選手。37.N1400クラス3位の山田大輔選手。38.N1000クラス2位の立河元基選手。39.AUDI A1 FUN CUPクラス2位の伊シカワヨシオ選手。40.AUDI A1 FUN CUPクラス3位の鈴木俊介選手。41.AUDI A1 FUN CUPクラス優勝の藤井優紀選手。42.N1400クラス表彰の皆さん。43.N1000クラス表彰の皆さん。44.N1500クラスの表彰台。45.AUDI A1 FUN CUPクラス表彰の皆さん。



MINI CHALLENGE JAPAN 第8戦 / 46.優勝は勝亦勇雅選手。47.2位の一條拳吾選手。48.3位の松田秀士選手。49.表彰の皆さん。



MINI CHALLENGE JAPAN 第9戦 / 50.表彰の皆さん。51.2位の勝亦選手。52.3位の松田選手。53.優勝は一條選手。

予定狂っちゃいました」とあって、優勝の雨宮選手が「5年ぶり」のチャンピオンに確定した。

N1400 / N1500 / N1000 / デミオレース / AUDI A1 FUN CUP といったコンパクトカー5クラスの混走レースは、N1500のポイントリーダー高橋ノボル選手がポールを獲得。勝った方が王者確定のライバル、大竹直選手は6番手に洗んだため、大幅に有利だと思われていた。

「昨日から調子は良くて、エンジンも快調です。このまま逃げ切りしたいところですが、無理でしょう。いつも大竹さんにいいところを持っていかれるし……」と高橋選手。そんな予想は的中し、じわじわ順位を上げてきた大竹選手は、5周目にはトップに浮上。最終ラップに再逆転を狙った高橋選手だったが、コンマ1秒だ

け届かず。その結果、大竹選手の3連覇が確定した。

「昨日まで本当に調子悪くて、いろいろ考えるのはやめよう。正直、厳しいとは思っていません。優勝しかないわけだし。前には出られても、あとは後ろがどうじゃれ合ってくれるか次第でしたから」と大竹選手。一方の高橋選手は「やるだけのことはやりました……」とガックリの様子。

アウディA1は3連勝で、すでにチャンピオンを確定させている伊シカワヨシオ選手に土がついた。連勝を止めたのは、今回がデビューレースの藤井優紀選手。

「以前、少しカートをやっていました。基本的に忠実なドライビングをしないと、速く走れないクルマですね」と会心の勝利に笑顔も。

N1500は西山隆選手が、デミオは常盤岳史選手が優勝。そして、やはりここまで3連勝で立河元基選手が王座確定のN1000は、その立河選手が練習中のクラッシュで急きょハコ替に。対照的に絶好調だったのが前田貴行選手。ポール・トゥ・ウィン目指し、ひた走るもクラス違いの車両のスピンの巻き込まれ、無念のリタイヤを喫してしまう。「ラッキーでした！」と語る優勝は赤堀康裕選手が獲得し、立河選手が意地の2位を獲得した。

MINI CHALLENGE JAPANのレース1は、勝亦勇雅選手の初ポール、初優勝となり、トップ6のリバースグリッドとなったレース2は一條拳吾選手が優勝。2連覇を確定させて「チャンピオンらしい終わり方ができたと思います」と語っていた。